

拉致被害者救出のため強い覚悟をもって ブルーリボンバッジを着用する共同声明

我々は我が国の政治家として、北朝鮮による日本人の拉致事件は単に拉致被害者の人権侵害というだけではなく、日本の国家主権の侵害の問題として認識し、これまで拉致被害者の救済のために議会活動その他国民運動に邁進してきました。

いま地方行政においては、執務中の職員までもがブルーリボンバッジを着用する自治体が少なからず存在し、東京都知事、大阪府知事、沖縄県知事をはじめ、警視総監までもがブルーリボンバッジを着用して議場に入場しています。国においても、全ての閣僚がバッジを着用して閣議に臨み、官房長官自らがその写真を撮影して拉致被害者のご家族に報告しています。

ブルーリボンバッジは拉致被害者救済活動の象徴的な存在です。これを公有地である裁判所の敷地内で着用させないよう、司法という国家権力を持って命じられるという暴挙がありました。驚きと深い悲しみを禁じ得ません。さらにその理由が法廷で釈明されていないことには怒りすら覚えます。だからこそ、ここに我々は、覚悟をもってブルーリボンバッジを着用することを宣言いたします。

議会名	氏名

署名実施・送付先 **ブルーリボンを守る議員の会**

会長：小坪慎也（行橋市議会議員）〒824-0055 福岡県行橋市上稗田 1097-1

FAX: 0930-37-2635（極力、HP (QRコード) からの賛同をお願いしています。)



本署名はインターネット上に公開され、ブルーリボン訴訟の弁護団を通じ法廷にも提出されます。